

リウマチ・アレルギー内科

当院のリウマチ・アレルギー内科はH23年4月に新設されました。

当院では古くから、千葉大学旧第二内科の関連病院として、膠原病・リウマチ性疾患、および気管支喘息を中心としたアレルギー性疾患を多数扱って来ましたが、診療体制の拡充に伴い専門内科として標榜することとなりました。

近年、関節リウマチの診療においては、生物学的製剤の登場などにより、かつては治療困難であった症例も、寛解を目指した治療ができるようになって参りました。そのため、内科的治療を中心とするべき関節リウマチ症例は、近年飛躍的に増えてきており、リウマチ専門医の需要は非常に増大しています。

更に、当科が扱うべき疾患には、自己免疫疾患のみならず、診断困難な感染症や、近年注目されつつある自己炎症性疾患など、的確な診断が予後を大きく左右する疾患も数多く存在します。

こうした疾患を見る目を養うことは、一般内科医としての実力をつける上でも、極めて重要であると言えます。

また、膠原病をはじめとした全身性疾患の重症例・難治性症例への対応、日和見感染をはじめとした副作用への対応などには、より深い専門性と、幅広い分野にわたる病院としての総合力が同時に求められます。当院は、豊富な救急・入院・外来症例があり、ほぼすべての科を網羅する総合病院であるため、全身性疾患を学ぶ上で、必要な条件が整っています。

アレルギー性疾患については、主に気管支喘息を扱っています。また、ハチ・食物アナフィラキシーやDIHSなど薬剤性アレルギーにも対応しています。リウマチ学会・アレルギー学会・内科学会での発表や、論文作成も積極的に行っていただきたいと思えます。

入院診療は、膠原病、リウマチ性疾患、アレルギー性疾患のみならず、COPDの急性増悪や呼吸器感染症、間質性肺炎などの呼吸器疾患も数多く診療しています。

将来、リウマチ専門医・アレルギー専門医を目指す方はもちろんのこと、総合内科専門医、他の分野の専門医を志向する方も大歓迎です。

実力のある医師、全身を広く診られる医師を目指し、共に研鑽をして参りましょう。



リウマチ・アレルギー内科研修指導責任者

平栗 雅樹

リウマチ・アレルギー内科部長／アレルギー膠原病センター長
日本リウマチ学会専門医・日本アレルギー学会専門医
日本内科学会総合内科専門医
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医
千葉大学医学部臨床教授

■研修指導医
副部長／川島 広稔

01 研修期間

総合内科後期研修の場合2年間の内科研修のうち3～6ヶ月

専修医としてリウマチ専門医・アレルギー専門医を目指す場合は2年以上

02 目的・到達目標

●総合内科後期研修の場合

以下に挙げるようなリウマチ性疾患・アレルギー性疾患・日和見感染などの感染症に対する診断・治療についての基本的な知識を身につけ、一般内科医としての実力向上を目指す

●専修医の場合

日本リウマチ学会専門医、日本アレルギー学会専門医、総合内科専門医の取得を目指す

(将来、免疫疾患の臨床研究・基礎研究を志す方も進路の相談に乗ります)

03 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本リウマチ学会	リウマチ学会専門医 (取得のための準備)	日本リウマチ学会専門医研修施設
日本アレルギー学会	アレルギー学会専門医 (取得のための準備)	アレルギー学会教育施設

04 当科が担当する疾患

関節リウマチ、膠原病(全身性エリテマトーデス、多発筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織病、強皮症、シェーグレン症候群など)、血管炎(顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、IgA血管炎、クリオグロブリン血症など)、膠原病類縁疾患(リウマチ性多発筋痛症、成人スティル病、バーチェット病、サルコイドーシスなど)、自己炎症性疾患(家族性地中海熱、TNFレセプター関連周期熱症候群TRAPSなど)、気管支喘息、COPD、感染症一般(輸入感染症、日和見感染感染症を含む)、ウイルス性疾患(パルボウイルス、EBウイルス、サイトメガロウイルス、重症インフルエンザなど)、アナフィラキシー(ハチ、食物)、DIHSなどの薬剤アレルギー